

## 特集「現場から④ 附属学校教育局・共同教育研究施設」

- 現場からの④として、附属学校教育局とセンターの特集をお送りする。附属学校教育局には世間に広く名の知れた初等・中等教育と障害教育など多くの側面を持っている。ことに明治初期から連綿と続く障害教育は、筑波大学が我が国の根幹を担っていると言っても差し支えない。一方、センターをその機能に即して観ると、教育に関する共同利用のもの、研究に関する共同利用のもの、教育研究の両面を持つ共同利用のもの、主に教育研究基盤を提供し、各種の支援を行うものなどに分類することができる。また、共同利用といっても、全国共同利用のもの、全学的な共同利用のもの、研究科所属ものがある。いずれのセンターも研究と教育の「主役」として大きな花を咲かせ、しっかりとした安定な根を張ることが期待される。しかし、これらセンターには、性格の違いや設置経緯により、年間予算と教職員数に大きな格差が見られる。法人化後は、全ての組織が運営費交付金の対象組織として絶えず予算削減・定員削減の対象になっている。現場からの声は皆さんにどんな声として聞こえるのであろうか。

## 附属学校教育局

### ～大学・11の附属学校・社会を繋ぐステーションとして

石隈利紀

人間総合科学研究科教授 附属学校教育局指導教員

#### 1. 附属学校教育局

東京メトロ「茗荷谷」駅から歩いて3分のところに、筑波大学東京キャンパスがあります。そこに筑波大学附属学校教育局のオフィスがあります。平成16年4月筑波大学が国立大学法人になり、「学校教育部」が改組されて「附属学校教育局」が発足しました。附属学校教育局は11の附属学校の管轄組織であり、谷川彰英教育長、鳥山由子次長、宮崎秀生次長のもと、教員（10名）、学校支援課、総務課、教職員課の職員が勤務しております。連携組織として特別支援教育研究センターなどがあります。（図参照）

#### 2. 附属学校

11の附属学校を簡単に紹介します。

##### (1) 附属小学校

（校長 田中統治；副校長 坪田耕三）

初等教育の理論と実践について先進的な実践と研究を行っています。「子ども力」（子

どもが本来もっている力、および子ども時代に身につけ始めなければならない力）の向上について焦点をあてて研究しています。

##### (2) 附属中学校

（校長 阿部生雄；副校長 山口正）

わが国の教育を先導する中学校教育の実践と研究を発信しています。カリキュラムに関する研究に力を注ぎ、とくに国際社会に通用する中学校のカリキュラムの先導的研究に取り組んでいます。

##### (3) 附属高校

（校長 田上不二夫；副校長 高澤耕一）

体系的な知識・技能・態度の習得をめざすカリキュラムの研究において、わが国でリーダーシップを発揮しております。また将来の職業選択を見据えた進路選択ができるように指導実践を行っています。

##### (4) 附属駒場中学校・高等学校

（校長 柿島眞；中学校副校長 宮崎章；高校副校長 小林凡）

中・高一貫教育の実践研究に力を注ぎ、「トップリーダーを育てる教育の実践的研究」に取り組んでいます。平成14年度には「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」の研究開発校に指定されました。

(5) 附属坂戸高校

(校長 中村徹；副校長 大平典男)

平成6年文部省が推進する高校教育改革パイロットモデル校として、全国初の総合学科に改編しました。「大学で何を学ぶか」を学ぶキャリア教育、IT人材育成プロジェクトに取り組んでいます。

(6) 附属盲学校

(校長 皆川春雄；副校長 梅原無石)

わが国唯一の国立の盲学校として、日本の視覚障害教育の中心的な役割を果たしてきました。通常学級に在籍する視覚障害児を対象とした通級指導など、特別支援教育の先進的な教育モデルを示しています。

(7) 附属聾学校

(校長 四日市章；副校長 今井二郎)

日本唯一の国立の聾学校として、日本の聴覚障害教育の中心的な役割を果たしています。平成15年には、世界でもっとも古い歴史をもつパリ聾学校と姉妹校の提携をするなど、国際的な交流をしています。

(8) 附属大塚養護学校

(校長 柳本雄次；副校長 神田基史)

日本における知的障害教育のリーダー

シップを発揮し、カリキュラム開発を中心とした実践研究をしています。また通常学級の子どもも含んだ特別支援教育の推進として、文京区での地域支援モデルの実践研究に取り組んでいます。

(9) 附属桐が丘養護学校

(校長 安藤隆男；副校長 吉沢祥子)

日本唯一の国立の肢体不自由養護学校として、肢体不自由の児童生徒に対する教育方法の教育・研究における日本の中心的な役割を果たしてきています。児童個々のニーズに応じる教育をめざし、地域支援にも取り組んでいます。

(10) 附属久里浜養護学校

(校長 西川公司；副校長 馬場信明)

知的障害を伴う自閉症児を対象に教育・研究を行う養護学校として、平成16年度から筑波大学の附属学校となりました。文部科学省の研究開発学校の指定を受け、自閉症児のためのカリキュラムの開発に関する研究に取り組んでいます。

筑波大学に上記11校の附属学校があることは、教育の実践研究を行ううえで意義深いことです。附属学校教育局では、小・中・高の一貫教育、高大連携の研究、「障害のある子ども（への教育）」と「通常の子ども（への教育）」の交流・統合などから新しい学校教育モデルの発信をめざしています。

さて筑波大学附属学校の卒業生は、各界

で活躍しています。本学学長岩崎洋一先生は、附属高校のご卒業です。活躍している卒業生の一部を紹介します。政界では、川口順子氏（参議院議員・元外務大臣）、後藤田正純氏（衆議院議員）、文芸界では小林信彦氏（作家）、野田秀樹氏（劇作家・演出家・俳優）、野村武司氏（狂言師・野村萬斎）。また井崎哲也氏（日本ろう者劇団俳優・NHK「みんなの手話」講師）や河合純一氏（全盲のスイマーで、パラリンピック金メダリスト）もいます。

### 3. 附属学校教育局の教員の役割

附属学校には、8名の指導教員がいます。そして2名の専任校長（盲学校、久里浜養護学校）と1名の技官を加えて、総計11名で、附属学校の支援を行っています。具体的には、以下の役割をもっています。

#### (1) 研究

##### ① 大学と附属学校の連携

大学の研究に附属学校が協力することは、附属学校の使命の中核をなすものです。また附属学校が教育実験校として学校独自の研究を行う際に、大学の研究者の協力を必要とします。これらの連携は、大学・附属学校連携委員会を中心として推進され、また各学校には連携小委員会が設置されています。指導教員は、連携委員会、連携小委員会を通して、大学と附属学校の共同研

究における連絡・調整を行います。

##### ② プロジェクト研究

附属学校の教員は、日本の学校教育が抱える重要な問題に関連して、自主的にプロジェクトを立ち上げ、附属学校の教員や大学の教員とともに研究をしています。平成17年度のテーマと附属学校教育局の担当者を紹介します。①「個別の教育支援計画の開発に関する研究」（担当：篠原吉徳、皆川春雄、西川公司、菅野和恵等）、②「児童生徒の心身の健康とそのサポート・システムのあり方の研究」（担当：石隈利紀、熊谷恵子、田中輝美、菅野和恵、下山晃司等）、③「筑波大学及び附属学校における教職教育の在り方の研究」（担当：江口勇治、生田茂、木村範子等）④「共に創る交流教育の研究」（担当：千田捷熙、篠原吉徳、皆川春雄、下山晃司等）です。平成18年度は、これらのほかに「ICTツールを用いた教材開発、授業手法の改善」（代表：生田茂）と「高大連携によるキャリア教育の在り方に関する研究」（代表：石隈利紀）の研究が計画されています。プロジェクト研究のなかには、科学研究費補助金を獲得して進めるものもあります。

##### ③ 産学連携の共同研究

平成17年度、附属学校教育局と時事通信社との産学連携事業として、全国の教員採用試験問題の分析・評価を基に、新たな教

員採用試験のあり方について検討しました。これまで教員採用試験の研究は、ほとんど行われてきておらず、貴重な研究として注目されています。

## (2) 主な教育支援

### ① 教育実習

筑波大学では教員免許の取得をめざす学生は例年1000名を超え、附属学校や母校などで教育実習を行う学生は600名以上になります。附属学校の指導教員は、全学学群教職課程委員会、教職課程専門委員会の中核メンバーとして、教育実習の訪問指導や事前研修などを行っています。

### ② 教育相談

附属学校教育局の指導教員は、附属学校の幼児児童生徒に関する相談を行っています。また、筑波大学心理・心身障害教育相談室大塚グループのメンバーとして、教育研究科カウンセリング専攻と共同で、地域への相談サービスを提供しています。

### ③ 研修

附属学校教育局の指導教員は、附属学校の教員を対象とした研修を企画し、実施しています。

### ④ 教育史資料

筑波大学附属学校には、わが国の教育史を語る上で欠かすことのできない貴重な資料が豊富にあります。これらを保管維持し、補修し、また資料の目録を作ることは大変

な課題です。指導教員は、教育史資料のリストの電子化を進めています。

## 4. 附属学校教育局の課題

附属学校教育局にとっての大きな課題は、筑波大学に附属学校という豊かな資源があることを大学のみなさんに知ってもらうことです。つまり附属学校の研究成果や共同研究者としての附属学校の教員の価値を伝え、研究実践の場としての附属学校の価値、そして附属学校を通して行う大学の社会貢献について説明することです。その一環として、局では広報誌「ボローニア」を発行しています。附属学校教育局は大学と附属学校の連携を促進して、筑波大学の教育・研究に貢献していきます。

(いしくま としのり/心理学)

# 附属学教育局の組織

(附属学校教育局)

(附属学校)

